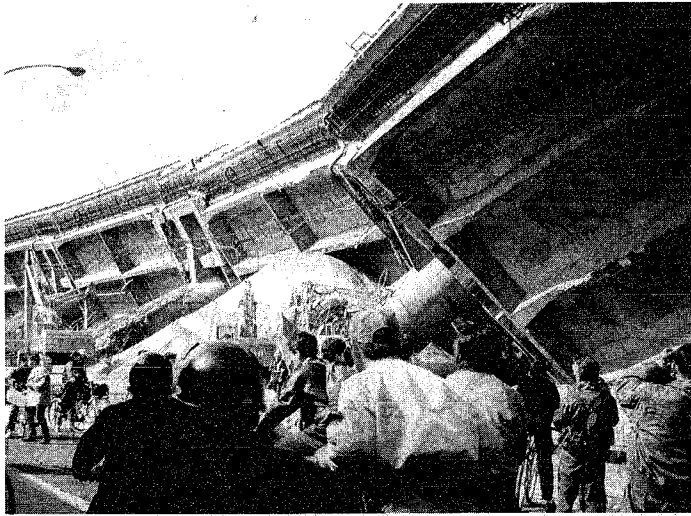


# 災害は 忘れたころにやってくる

## 大震災の教訓はどう生かされたか



阪神・淡路大震災で倒壊した高速自動車道

昭和三十三年六月十六日、午後一時二分、粟島の南方海底四十キロを震源としたマグニチュード七・五の新潟地震が発生。新潟市では死者百三十六人、家屋の損害は約二万世帯という大被害を受けました。新潟地震から三十二年が経過し、人口の増加、建築物の高層化、車社会へと、まちの様子は一変しました。もし、あの恐ろしい地震が再び発生したら、昨年一月に起こった阪神・淡路大震災では、約六千三百人の犠牲者を出し、一年以上たった現在でも、なお多くの人が不自由な生活を余儀なくされ、大きな爪跡を残しています。

多くの尊い命を代償に、私たちに突きつけられた貴重な教訓、この教訓を生かし、どうしたら自分や身近な人命・財産を守ることができるのかを、この機会に考えてみましょう。

### 新潟市の主な取り組み

#### ①地域防災計画

阪神・淡路大震災を教訓として、従来の地域防災計画を現在の都市構造や社会状況に合った防災計画とするため見直しを進めています。

#### ②災害時の通信網の整備

大きな災害が発生した場合、電話回線の寸断などで適切な情報が得られない場合が想定されるため、地域防災無線を市内の公的施設などに、携帯型なども含め約280局を配備する予定です。

災害状況を高所カメラで写し出し、その映像を通信衛星を使って国の機関や他都市の消防局に伝送するシステムを10月から運用開始する予定です。

#### ③備蓄

水やお湯を注ぐだけで食べられるアルファ米や乾パンなど51,000食と、水、毛布などを市内15カ所に分散して備蓄。また、市内7カ所に飲料水と兼用できる貯水槽(100m<sup>3</sup>)を設置しています。

また、本年度中に、市民病院でも入院患者、職員の食料、水、医薬品などを備蓄する予定です。

#### ④木造住宅の耐震診断

昭和56年以前の家の耐震診断を希望する市民に、5万円を限度に調査費用の半額を補助する制度を開始する予定です。

また、簡単に自己診断できる方法を解説したパンフレットを本庁、地区事務所に配置してあります。

#### ⑤水道の配水ブロック計画

地震が起きた場合、水道管の被害地域を最小限に限定するため市内をブロックごとに分け、あるブロックが被害を受けても、ほかのブロックで補えるように整備を進めています。

#### ⑥大型救助工作車など配備

高度救助資機材を搭載した救助工作車と40mはしご付き消防ポンプ自動車を購入するなど、大災害時の救助体制の強化を進めています。これではしご車は、合計6台となります。

#### ⑦災害援助協定

大災害発生の際は、行政機能も被害を受けるため、周辺市町村などと連携をとり、速やかに対応することが必要となることから、川崎市および市周辺の19市町村と自治体間の相互援助協定を結んでいます。

### 地域の取り組み

#### 住民が防災意識を高揚



力を合わせて応急救助

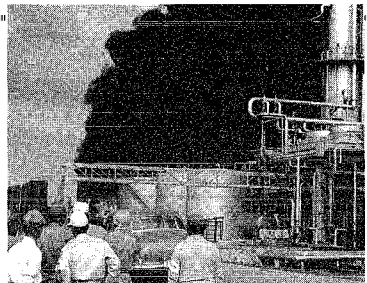
坂井輪 東部  
中央 自治会

阪神・淡路大震災では、地域住民が道路の側面に並び、バケツリレーをして消火活動に努めました。こういった経験から、これからは地域単位による防災活動の重要性が、ますます大きくなっています。

大震災を教訓に毎年、坂井輪東部自治会連合会(飯塚謙助会長)と坂井輪中央自治会協議会(羽生弘吾会長)が合同で、自主的な防災訓練を行っています。

このほど亀貝の市消防訓練所で行われた訓練には、約三百人の住民が集合。実践的な消防活動、応急救助訓練などを行い、地元住民の防災意識を高めました。

飯塚会長は「いざという時に、地域でどの程度までできるかが課題。そのためには、地域の防災意識の啓発を日ごろから努めていかなくては」と力強く話していました。



新潟地震発生

昭和39年6月16日  
午後1時2分

新潟地震による新潟市の被害概要	
死者	11人
重軽傷者	125人
被災世帯	約33,000世帯 (全市世帯数の40%)
被災総額	約1,048億円 (当時の市の一般会計の21倍の額)

ちょうど三十二年前の六月十六日、新潟市は強烈な地震に襲われました。激しい揺れに地面はムクムクと盛り上がり、次から次へと地割れができ、そこからおりた泥水が流れ出しました。信濃川の護岸堤が倒壊し、海抜ゼロメートル地帯には水が浸入、ほどなく来襲した十四波もの津波により浸水被害は市内全域に拡大。被害は床上浸水一萬一千八百八十三世帯、床上浸水二千五百世帯に及びました。

地震発生と同時に電話は不通に、水道・ガス電気は止まり、道路網は寸断されました。数日前までまちを沸かせた団体会議場の陸上競技場、市体育館は見る見る無残な姿になってしまいました。

そして、石油タンクの爆発炎上。三百六十時間にわたる燃え続け、息絶まるような黒煙が市内上空に高く大きく広がりました。さらにタンクから流出した原油により周辺民家に延焼。隣接町周辺は一面焼け野原になりました。